

que sais-je!

文庫クセジュ

改訂新版

共同市場

J・F・ドゥニヨー

野田 早苗 訳

白水社

《文庫 クセジュ》
現代知識の焦点

≡≡≡ *Que sais-je?* ≡≡≡

改訂新版

共 同 市 場

J.-F. ドゥニヨー 著

野田 早苗 訳



東京 白水社 神田

J.-F. Deniau : LE MARCHÉ COMMUN.
(Collection QUE SAIS-JE? N° 778)
Original copyringtby Presses Universitaires de France.
Copyringt in Japan by Hakusuisha.



訳者略歴

一九〇三年生
一九二七年東京商大卒

国際経済学・経済地理学専攻
福岡大学経済学部教授

主要著書

「米・ソ比較経済論」

主要訳書

ペイレ「世界の食糧」「世界の工業原料」

ラコスト「低開発諸国」

ルロン「農業市場」

クレール「農業共同市場」

マルシャル「国家統合」

リュシェール「低開発国援助」

ベルダン「国際投資」

クロジエ「地理学史」

ジョルジュ「消費の地理学」「ソビエト連邦の地理」

「アメリカ合衆国の地理」「地理学の方法」

「人口地理学」

改訂新版

共同市場

一九七六年一月五日第一刷発行
一九八〇年七月二〇日第四刷発行

訳者

◎

野田 早苗

雄

発行者

中 森 季

雄

印刷所

東洋経済印刷株式会社

発行所

株式会社白水社

東京都千代田区神田小川町三の二四
電話東京(281)七八一一(代)
振替東京九一三三二二八
郵便番号一〇一

加瀬製本

(分)1233(製)82694(出)6911

日本の読者に

本書は『文庫 クセジュ』の一冊である。一九四一年フランスに発足したこの文庫は、現在五百冊を刊行しており、完成のあかつきには千冊に達する予定である。『文庫 クセジュ』は、知能に基礎的陶冶をくわえるための現代知識の焦点たらしめようという刊行者の意図によつてはめられた遠大な仕事である。

このような仕事をなぜフランスではじめるようになったのであろうか。その第一の理由は、フランスが百科全書精神、いいかえればあらゆる人知を系統的に解明することをこころざす知的技術の誕生の地だからである。デイドロやダランベールの手になる『大百科全書』が刊行されはじめたのは一七五一年パリにおいてであつた。この偉業は神学上の束縛から人間精神を解放するのにあづかつて大きな力があつたし、また一七八九年のフランス大革命のもっとも積極的な要因の一つともなつたのであつた。

第二に、フランス人の知性はその本質的な傾向から、普遍と総合、つまりあらゆる百科全書が主眼とする二つのことがらを目ざすものだからである。

第三に、フランス人は、ひとびとのためにつくす最上の方法はその知性をたかめ文化財をゆたかにすることであると確信しているからである。この二つの目的にそうためには、慎重な構想のもとに細心の注意をもつて作られた書籍で、きわめて教育的価値の高いしかもきわめて価格の安いものを、できるだけ豊富に提供するほかに道はない。

こういうわけで、『文庫 クセジュ』がフランスにおいて熱狂的な歓迎をうけ、また知識欲にもえる若い世代の人たちによつて学業のおきないとしてとりあげられているのも、当然のことといわなければならぬ。

しかし、『文庫 クセジュ』の生みの親たちは、自分たちははじめた仕事はフランスおよびフランス語諸国以外でその真価を認められ受けいられようとは夢にも考えなかつた。ところが事實はその逆であつた。この文庫の最初の一冊を世に問うてから十年、そのあいだに世界の七か国語をとおして、このささやかながら貴重な冊子は地球のすみずみまで行きわたるようになったのである。

このたび、日本のような古い伝統にちかわれた文化国がこのフランス精神の発露を受けいれてくれることになつたのをわれわれはとくにうれしく思っている。人間精神のもっとも高邁なはたらきによびかけるこの文庫の使命には、野望も私心もさらがない。日本の読者がみなこの使命を理解し、それが千年の歴史に輝く二大文化の精神的接触に寄与することを願つてやまない。

一九五一年十月

コレクシヨン『クセジュ』監修者

ポール・アングルヴァン

日本語版への著者序文

共同市場は、経済的方面と政治的方面との双方にまたがって意義の深い、ひとつの革^{イノベーション}新である。それだから、共同市場の加盟国はヨーロッパの六か国にすぎないけれども、世界の国々の全体から関心をもたれる十分な理由がある。

共同市場を動かしている諸原理と、それが実施を規定している諸条件とは、学者に対し、また實際家に対して、種々有益な教訓をあたえるものである。その實際的影響は、まずもってヨーロッパにあらわれるが、それが成功にともない、漸次ヨーロッパ以外の国々にも波及するであらう。

経済的方面においては、西ヨーロッパの加盟六か国が、うまく事を運ぶため採用した構想に、深い創意のあとがうかがわれる点に、興味があるように思われる。それは、まず、人類活動の各種領域のあいだ、経済発展の各種段階のあいだ、純粹に商業的な領域のなかでの通商自由の進歩と、金融的、社会的、文化的、政治的な他の領域のなかでの加盟国の協力の進歩とのあいだにおける均衡化の意図

として示されている。

この均衡化の意図は、また、一つの必要に吻合するものである。事実、一つの経済的基礎のうえに立つ諸国民の接近というこのような企ては、もしも、その利益が、全体的規制による域内の調整によって、十分均等に配分されることができなかったならば、所期の目的を達成する機会をもたないように思われた。そこで条約の締結者たちは、一方においては、関税同盟が全加盟国を満足させない結果に立ちいたらせることを回避するように考慮を払うとともに、他方においては、その結合が、経済的影響のなかで、不均衡によって途中で挫折しないように考慮を払ったのである。これが、非常に重要な点である。共同市場条約を形づくっている約束の全体は、加盟国のすべてに對して、通商における関税撤廃の非常に漸進的な機構が、最後までうまくやりとげられるよう保証をあたえることを主要な目的としている。たんなる商業的な条項をもってしては、工業的領域のなかで、競争を増加しつつ、この保証をもたらずには十分でないからである。もう一つの別な国際的経験がそのことを示した。それを期待することができるのは、一つの関税同盟の枠内においてであり、さらにより適切であるためには、十分緊密に結びついた一つの新しい経済統合体の枠内においてであることが必要であったのである。

この新しい経済統合体の創設は、まず第一に、たしかに純粋なヨーロッパ的考慮、とくに政治的な

面でのヨーロッパ的考慮に即応するものである。それは、今日まで、あまりにもしばしば対立していた諸国民の接近を企図しているのである。さらにまた、それは、ヨーロッパに、通商の発展、生産の専門化、最も近代的な技術の合理的利用によって促進される経済の発達に最も有利な条件をつくりあげることを企図しているのである。資源の共同利用は、事実上、資源の増加としてあらわれてこなければならぬ。

しかしながら、このような結果は、ヨーロッパ六か国の域内市場の範囲のみに限られることはできないであろう。ヨーロッパは、残余の世界と、あまりにも緊密に結びつけられているからである。すでに共同市場六か国の結合は、世界第二の商業的強国、そしてまた世界で最も重要な原材料購買者となっている。もしも、共同市場が成功であり、もしも、共同市場が、その目的であり、その正当さの証明でもあるとおり、生産の発展と生活水準の引き上げとをもたらすならば、共同市場は、そのことによって、世界の他の部分との通商の速やかな発展をもたらすであろう。

ヨーロッパにより強力な一経済が創設されたことをおそれるところか、他の国々は、そこに世界的にみてより高い水準における均衡の追求と双務関係の特殊面における通商拡大とに対して積極的参与がなされていることを看取しなければならぬであろう。これは、工業的諸国における生産の増大と工業的諸国の協力精神の高揚につとめている発展途上にある国々に対して真実であるばかりでなく、ヨーロッパに属しない工業的諸国に対しても、また真実である。事実、経験は、非常に経済的に発展

を遂げた一国の最良の顧客は、最も経済的に発展を遂げた国々であること、そしてまた、世界の一地域における工業の発展は、他の工業的強国との通商の拡大をもたらすことを示しているのである。

繁栄は、ひとりだけでえられるものではない。繁栄は、分かれたることなくしては、長持ちしない。ヨーロッパにおける共同市場の創始者たちから教えられる教訓は、この点にあると、わたくしは考える。共同市場がヨーロッパ以外の国々にあたえることのできる希望も、またこの点にあるのである。

それゆえに、わたくしは、野田早苗教授が、われわれの目的としているこの高揚された協力の原理と態様とを日本の読者に紹介されたことに対して、深く謝意を表するものである。条約にもまさって、しばしば価値あるものは、人間の報^{アングロマシオン}道であり、大きく育てあげることが望ましいものは、われわれの国と国との場合と同じく、人と人との対^{ダイアローグ}話であるから。

一九五九年七月六日　ブラッセルにて

J・F・ドゥニヨ

著者略歴

著者は、パリ国立政治科学研究所卒業、経済学および人類学、社会学専攻の法学士、文学士にして、一九五二年会計検査官に任官、一九五五年ヨーロッパ経済協力問題関係委員会書記長補佐として北大西洋条約機構（N・A・T・O）およびヨーロッパ経済協力機構（O・E・C・E）関係の事務を担当、一九五六年共同市場およびユーラトム（ヨーロッパ原子力共同体）各国政府代表者会議代表委員にあげられ、フランス側交渉委員として、共同市場の設立に参画、一九五七年フランス内閣議長官房付（経済問題担当）、一九五八年商工大臣官房技術顧問（対外関係担当）、一九五九年在ブラッセル、ヨーロッパ経済共同体委員会第三国部専務理事などを歴任、現在フランス大蔵省に復帰している。一九六三年わが国にも来朝した。共同市場問題、ヨーロッパ経済共同体問題の理論家および実務家として著名である。（訳者）

《文庫 クセジュ》
現代知識の焦点

≡≡≡ *Que sais-je?* ≡≡≡

改訂新版

共 同 市 場

J.-F. ドゥニョー著

野田 早苗 訳



東京 白水社 神田

J.-F. Deniau : LE MARCHÉ COMMUN.
(Collection QUE SAIS-JE? N° 778)
Original copyright by Presses Universitaires de France.
Copyright in Japan by Hakusuisha.



日本の読者に

本書は『文庫 クセジュ』の一冊である。一九四一年フランスに発足したこの文庫は、現在五百冊を刊行しており、完成のあかつきには千冊に達する予定である。『文庫 クセジュ』は、知能に基礎的陶冶をくわえるための現代知識の焦点ならしめようという刊行者の意図によつてはじめられた遠大な仕事である。

このような仕事をなぜフランスではじめるようになったのであろうか。その第一の理由は、フランスが百科全書精神、いいかえればあらゆる人知を系統的に解明することをこころざす知的技術の誕生の地だからである。ディドロやダランベールの手になる『大百科全書』が刊行されはじめたのは一七五一年パリにおいてであった。この偉業は神学上の束縛から人間精神を解放するのにあずかって大きな力があつたし、また一七八九年のフランス大革命のもっとも積極的な要因の一つともなったのであつた。

第二に、フランス人の知性はその本質的な傾向から、普遍と総合、つまりあらゆる百科全書が主眼とする二つのことがらを目ざすものだからである。

第三に、フランス人は、ひとびとのためにつくす最上の方法はその知性をたかめ文化財をゆたかにすることであると確信しているからである。この二つの目的にそうためには、慎重な構想のもとに細心の注意をもつて作られた書籍で、きわめて教育的価値の高いしかもきわめて価格の安いものを、できるだけ豊富に提供するほかに道はない。

こういうわけで、『文庫 クセジュ』がフランスにおいて熱狂的な歓迎をうけ、また知識欲にもえる若い世代の人たちによつて学業のおぎないとしてとりあげられているのも、当然のことといわなければならぬ。

しかし、『文庫 クセジュ』の生みの親たちは、自分たちのはじめた仕事はフランスおよびフランス語諸国以外でその真価を認められ受けいれられようとは夢にも考えなかつた。ところが事實はその逆であつた。この文庫の最初の一冊を世に問うてから十年、そのあいだに世界の七か国語をとおして、このささやかながら貴重な冊子は地球のすみずみまで行きわたるようになったのである。

このたび、日本のような古い伝統につちかわれた文化国がこのフランス精神の発露を受けいれてくれることになったのをわれわれはとくにうれしく思っている。人間精神のもっとも高邁なはたらきによびかけるこの文庫の使命には、野望も私心もさらにない。日本の読者がみなこの使命を理解し、それが千年の歴史に輝く二大文化の精神的接触に寄与することを願つてやまない。

一九五一年十月

コレクション『クセジュ』監修者

ポール・アングールヴァン

日本語版への著者序文

共同市場は、経済的方面と政治的方面との双方にまたがって意義の深い、ひとつの革イノヴェーション新である。それだから、共同市場の加盟国はヨーロッパの六か国にすぎないけれども、世界の国々の全体から関心をもたれる十分な理由がある。

共同市場を動かしている諸原理と、それが実施を規定している諸条件とは、学者に対し、また實際家に対して、種々有益な教訓をあたえるものである。その實際的影響は、まずもってヨーロッパにあらわれるが、それが成功にともない、漸次ヨーロッパ以外の国々にも波及するであろう。

経済的方面においては、西ヨーロッパの加盟六か国が、うまく事を運ぶため採用した構想に、深い創意のあとがうかがわれる点に、興味があるように思われる。それは、まず、人類活動の各種領域のあいだ、経済発展の各種段階のあいだ、純粹に商業的な領域のなかでの通商自由の進歩と、金融的、社会的、文化的、政治的な他の領域のなかでの加盟国の協力の進歩とのあいだにおける均衡化の意図

として示されている。

この均衡化の意図は、また、一つの必要に吻合するものである。事実、一つの経済的基礎のうえに立つ諸国民の接近というこのような企ては、もしも、その利益が、全体的規制による域内の調整によって、十分均等に配分されることができなかったならば、所期の目的を達成する機会をもたないように思われた。そこで条約の締結者たちは、一方においては、関税同盟が全加盟国を満足させない結果に立ちいたらせることを回避するように考慮を払うとともに、他方においては、その結合が、経済的影響のなかで、不均衡によって途中で挫折しないように考慮を払ったのである。これが、非常に重要な点である。共同市場条約を形づくっている約束の全体は、加盟国のすべてに対して、通商における関税撤廃の非常に漸進的な機構が、最後までうまくやりとげられるよう保証をあたえることを主要な目的としている。たんなる商業的な条項をもってしては、工業的領域のなかで、競争を増加しつつ、この保証をもたらずには十分でないからである。もう一つの別な国際的経験がそのことを示した。それを期待することができるのは、一つの関税同盟の枠内においてであり、さらにより適切であるためには、十分緊密に結びついた一つの新しい経済統合体の枠内においてであることが必要であったのである。

この新しい経済統合体の創設は、まず第一に、たしかに純粋なヨーロッパ的考慮、とくに政治的な

面でのヨーロッパ的考慮に即応するものである。それは、今日まで、あまりにもしばしば対立していた諸国民の接近を企図しているのである。さらにまた、それは、ヨーロッパに、通商の発展、生産の専門化、最も近代的な技術の合理的利用によって促進される経済の発達に最も有利な条件をつくりあげることを企図しているのである。資源の共同利用は、事実上、資源の増加としてあらわれてこなければならぬ。

しかしながら、このような結果は、ヨーロッパ六か国の域内市場の範囲のみに限られることはできないであろう。ヨーロッパは、残余の世界と、あまりにも緊密に結びつけられているからである。すでに共同市場六か国の結合は、世界第二の商業的強国、そしてまた世界で最も重要な原材料購買者となっている。もしも、共同市場が成功であり、もしも、共同市場が、その目的であり、その正当さの証明でもあるとおり、生産の発展と生活水準の引き上げとをもたらすならば、共同市場は、そのことによって、世界の他の部分との通商の速やかな発展をもたらすであろう。

ヨーロッパにより強力な一経済が創設されたことをおそれるところか、他の国々は、そこに世界的にみてより高い水準における均衡の追求と双務関係の特殊面における通商拡大とに対して積極的寄与がなされていることを看取しなければならぬであろう。これは、工業的諸国における生産の増大と工業的諸国の協力精神の高揚につとめている発展途上にある国々に対して真実であるばかりでなく、ヨーロッパに属しない工業的諸国に対しても、また真実である。事実、経験は、非常に経済的に発展

を遂げた一国の最良の顧客は、最も経済的に発展を遂げた国々であること、そしてまた、世界の一地域における工業の発展は、他の工業的強国との通商の拡大をもたらすことを示しているのである。

繁栄は、ひとりだけでえられるものではない。繁栄は、分かたれることなくしては、長持ちしない。ヨーロッパにおける共同市場の創始者たちから教えられる教訓は、この点にあると、わたくしは考える。共同市場がヨーロッパ以外の国々にあたえることのできる希望も、またこの点にあるのである。

それゆえに、わたくしは、野田早苗教授が、われわれの目的としているこの高揚された協力の原理と態様とを日本の読者に紹介されたことに対して、深く謝意を表するものである。条約にもまさって、しばしば価値あるものは、人間の報アンソールマシオン道であり、大きく育てあげることが望ましいものは、われわれの国と国との場合と同じく、人と人との対ディプロマシー話であるから。

一九五九年七月六日　ブラッセルにて

J・F・ドウニョー

著者略歴

著者は、パリ国立政治科学研究所卒業、経済学および人類学、社会学専攻の法学士、文学士にして、一九五二年会計検査官に任官、一九五五年ヨーロッパ経済協力問題閣僚委員会書記長補佐として北大西洋条約機構（N・A・T・O）およびヨーロッパ経済協力機構（O・E・C・E）関係の事務を担当、一九五六年共同市場およびユーラトム（ヨーロッパ原子力共同体）各国政府代表者会議代表委員にあげられ、フランス側交渉委員として、共同市場の設立に参画、一九五七年フランス内閣議長官房付（経済問題担当）、一九五八年商工大臣官房技術顧問（対外関係担当）、一九五九年在ブラッセル、ヨーロッパ経済共同体委員会第三国部専務理事などを歴任、現在フランス大蔵省に復帰している。一九六三年わが国にも来朝した。共同市場問題、ヨーロッパ経済共同体問題の理論家および実務家として著名である。（訳者）

